

もっと知りたくなる原敬

ハラケイ？ ハラタカシ？ どっちが本当？

「原敬」の読み方は、「ハラケイ」と「ハラタカシ」のどちらが正しいのか、知っていますか？ 実はどちらも間違いではなく、「ハラタカシ」は本名、「ハラケイ」は愛称です。原が総理大臣として活躍していた頃、盛岡の人たちは、尊敬と親しみを込めて「ハラケイさん」と呼びました。現在、原敬の史料を保存・展示している「原敬（ハラケイ）記念館」と、原が46年間書きつづった「原敬（ハラケイ）日記」は「ハラケイ」の読み方を名称にしていますが、これ以外は「ハラタカシ」と読みます。



大正7年総理大臣就任時の原敬

政治家、原敬



日本における政党政治100年の原点

本格的な政党内閣を初めて実現させたのは原敬です。それまでは、薩摩藩や長州藩の出身者などで占められた内閣でしたが、出自に関係なく国民に選挙で選ばれた政治家が、3年の長期にわたり国政を担ったのは、原内閣が初めて。貴族階級の証しである「爵位」を持たない初の総理のため、「平民宰相」として国民に親しまれました。東北はもちろん、東日本出身者で初の総理でもありました。



大正8年の写真。左から高橋是清、後藤新平、伊東巳代治、原敬、犬養毅

原内閣の政策

全国各地で鉄道敷設や港湾整備を進め、地方の経済発展を目指しました。また教育改革として高等教育機関を充実させ、人材育成にも力を注ぎました。早稲田や慶應など有名な私立大学が大学に昇格したのも、この時です。外交では、自国の利益を優先して軍事力で他国へ侵出するのではなく、特に米国との関係を重視した国際協調外交を展開しました。これは戦後の日本が採った外交方針の原型になったといわれています。しかし、当時はこれを「弱腰外交」と批判する声もあり、暗殺の一要因になったとする見方もあります。



「原敬日記」は政治史の貴重な史料

人間、原敬



どんな人？

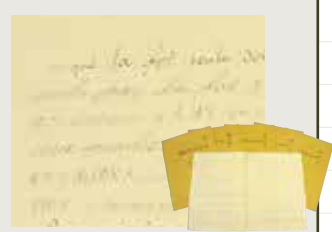
盛岡藩の上級武士の子として生まれましたが、9歳で父を亡くし、12歳の時に戊辰戦争の敗戦を経験、約20倍の難関を突破して入学した司法省法学校も寮の食事をめぐる学校との対立で放校処分になるなど、若い頃から大変な苦勞をしました。しかし、持ち前の粘り強さで努力を重ね、政治家はもちろん、外交官や経営者などとしても大きな実績を残しました。公の場では頭脳明晰な現実主義で知られましたが、プライベートでは優しく誠実な人でした。恩師の墓碑や功績を称えた記念碑を建てたり、上司が亡くなった後、その遺族の面倒を見たりしています。またオシャレな紳士でもありました。



原敬の最後の着衣はピンクのストライプ柄のシャツだった

優れた仕事ぶりを支えたものは

原敬は、先見の明と広い視野を持ち、優れた実務能力を発揮して、実業界や政界で活躍しました。その仕事ぶりを支えたのは猛勉強でした。パリ公使館時代は、観光などの娯楽はほとんどせず、家庭教師を雇い、語学はもちろん、法律や経済、数学に至るまで幅広く学んでいます。経営者や政治家時代の休日の過ごし方は、終日読書。1万冊を超える蔵書には、傍線や批評・感想などが書き込まれてあったそうです。



パリ時代のフランス語で書かれた原敬のノート

原敬 生きていく子どもたちの心に

校訓「宝積」

本宮小学校 向中野小学校



原が育った本宮地区にある本宮小と向中野小は、原敬の座右の銘「宝積」を校訓にしています。「宝積」には「人に尽して見返りを求めない」という意味があります。両校では、児童会のボランティア活動を「宝積活動」と呼び、6年生の子どもたちが中心となって校内のごみ拾いや秋の落葉掃き、冬の雪かきなどを自主的に行い、奉仕の心を育てています。

「宝積」の精神を子どもたちに

大慈寺小学校



原の「宝積」の精神を子どもたちに伝えるため、墓所である大慈寺の前に開校されたのが大慈寺小。原は校歌にも盛岡の偉人として歌われ、校章には、原家の家紋である「三つ桜」に「大」の文字が挿入され、原の精神と人徳を継承する子どもたちを育ててほしいという願いが込められています。本年度で開校90周年を迎え、今なお原の墓所の清掃や追悼会での校歌披露などを行っています。



大慈寺小の校章

市民生活に生きている原敬

1 遺徳顕彰碑

大正6年、報恩寺で戊辰戦争によって亡くなった旧盛岡藩士たちの霊を弔う式が営まれ、原は「戊辰戦役は政見の異同のみ」（戊辰戦争は、決して天皇に反抗して争ったのではなく、政治に対する考え方が違っていただけであり）と自身の考えを表しました。原の五十回忌を記念して、当時の県立図書館（現在のもりおか歴史文化館）の前庭に建てられたこの碑には、書の全文が刻まれています。



2 山田線

明治25年、山田線は国の「建設すべき路線」に指定されましたが、一向に具体化されませんでした。大正10年、交通網整備を重視した原内閣でようやく着工し、今もなお、内陸と沿岸を結ぶ鉄道として広く利用されています。



3 わんこそば

大のそば好きだった原は、妻・浅とそばの接待・演出方法について考え、さまざまな薬味を盛り付けできるよう、中ぶた付きの椀を考案。当時別邸にそばを提供していた直利庵の店主が、そこからヒントを得て、わんこそばを考案したといわれています（諸説あります）。



原夫妻が考案したそば椀

4 盛岡城跡公園

明治37年、南部家の顧問をしていた原は当時の県知事と市長から、南部家の所有地である盛岡城跡を公園として借りたいと相談を受けました。原は同家に交渉し、2年後、県は公園として整備。現在も市民の憩いの場として親しまれています。



5 原敬先生像(岩手県公会堂前)

原の没後30年にあたる昭和26年に、本山白雲（代表作・坂本龍馬像）により制作されました。生前、銅像嫌いだった原が、本山の依頼に応じ、モデルとなって制作された原型が基になっています。



8 原敬別邸(介寿荘)跡

明治42年、原が帰省する際の宿泊所と母・リツの住居として建てられました。原の母の長寿を願い、立憲政友会の秘書であった小池靖一が「介寿荘」と命名。原の排号から「一山荘」とも呼ばれています。原はここで多くの客を招いてもてなし、地元の人々との交流を深めました。また米寿を迎えた母のために祝宴を1週間も開き、母を喜ばせたといわれています。



9 原敬記念館と生家

原の遺品などを保存・展示する目的で、国内外からの寄付金により、昭和33年に建てられました。設計は谷口吉郎（代表作・東京御所）が手掛けています。県指定文化財「原敬日記」など、原ゆかりの資料約7千点を収蔵。敷地には原が15歳まで過ごした生家の一部が残されており、4～10月の土・日曜、祝日を学びに公開されています。



市長コラム

原先生が亡くなって100年を迎えるにあたり、その功績や人柄を再認識する記念事業を実施します。感染症対策で一部延期するものもありますが、心を込めて、取り組んでまいります。盛岡が誇る偉大な先人、原敬の遺徳に触れられる希少な機会ですので、市民の皆さんもぜひ、ご参加ください。



盛岡市長 谷藤 裕明

100回忌記念事業の紹介

本年度に開催する予定の記念事業

- ▶ 第100回原敬忌追悼会 11月4日(水)11時～12時 大慈寺 ※規模を縮小し、関係者のみで開催
- ▶ 原敬の音声再現と紹介映像公開 11月頃
- ▶ 原敬ゆかり献立給食 通信大臣時代（明治33・34年）の昼食、喫茶店の伝票にある「ハヤシライス」や「メンチパテ」など

来年度に延期する記念事業

- ▶ 原敬記念館特別企画展 来年7月と10月
- ▶ 紫波町平井邸での講演会 来年8月
- ▶ 東京ゆかりの地巡り 来年9月
- ▶ 記念切手の発売 来年9月
- ▶ 100回忌記念の集い 来年11月6日(土)
- ▶ 原敬を語る会 来年11月6日(土)

盛岡出身の先人を学ぶ「わんぱく原敬塾」



市内の小・中学校では、平成19年度から、新渡戸稲造や金田一京助など盛岡出身の先人の生き方を学び、「夢」「誇り」「志」を育む先人学習に取り組んでいます。その一環として、大慈寺、本宮、向中野の各小学校では、「わんぱく原敬塾」と称し、4～6年生の3年間、出前授業で原の生涯や功績、生き方などを学びます。

授業を受けて

原敬は、平和的で、日本を本気でより良い国にしようと思っていたことを学びました。自分は目立たないで、家族を大切にすることがいい人だと思います。



本宮小学校5年 八重樫 季信君

自分のことではなく、常に相手のことを考えて行動しているのがすごいと思いました。中学生になっても授業で学んだことを忘れずに、原敬のように、人に尽くして見返りを求めない人になりたいです。



本宮小学校6年 刈屋 隼人君